



行政評価局上席評価監視調査官
(厚生労働等担当)

田原 真人

Tahara Masato

平成16年4月 総務省
北海道管区行政評価局総務課
平成18年4月 行政評価局評価監視官付
(客観性担保評価PT)
平成20年4月 行政評価局評価監視官付
(独立行政法人第二・特殊法人等)
平成23年4月 行政管理局企画調整課総務係長
平成25年4月 行政管理局主査(農林水産省担当)
平成26年5月 内閣官房内閣人事局主査(農林水産省担当)
平成26年7月 大臣官房秘書課秘書専門職
平成27年8月 内閣官房行政改革推進本部事務局員
平成29年4月 大臣官房総務課審査・調整第一係長
平成30年5月 大臣官房秘書課人事第一係長
令和2年10月 大臣官房秘書課課長補佐
令和3年4月 現職



行政評価局評価監視調査官(農林水産、防衛担当)

佐藤 理

Sato Takeru

平成24年4月 総務省
関東管区行政評価局総務部総務課
平成25年4月 新潟行政評価事務所行政相談課
平成27年4月 茨城行政評価事務所行政相談課業務係長
平成29年4月 茨城行政評価事務所評価監視調査官
平成29年8月 関東管区行政評価局評価監視部
評価監視調査官
平成31年4月 内閣府国際企画担当主査(政策統括官
(政策調整担当)付参事官
(青年国際交流担当)付)
令和3年4月 現職

CAREER INTERVIEW

行政の現場をみつめ、世の中の役に立つ

係員時代

希望に満ち、行政の現場・社会の仕組みの一端を知る

行政運営の現場に実際に赴くことや、他府省・有識者の方々などとお話をする機会の多い業務に従事し、大学時代に学問として学んできた行政とは違った、実際の行政の現場や社会の仕組みの一端を知りました。当時は大変と感じていたこともあったはずですが、今振り返ると、見ること・聞くことの多くが新鮮という中で、気楽な立場で伸び伸びと(本当に、伸び伸びと)、働く上での基本を学びました。

係長時代

多様な業務に携わり、経験を積む

係長なりたての頃は、東日本大震災の直後であり、緊迫感が漂う中、行政の在り方について考えさせられた時期でした。その後、各府省の組織定員の査定や官房系の業務(省幹部の秘書、法令審査や人事)、内閣官房への出向など多様な業務に従事する機会に恵まれました。一段上がった責任の中で、時には相手府省との厳しい協議など様々な経験を積みながら、行政官としての引き出しを増やしていく時期にもなりました。

今、そしてこれから

世の中の役に立ちたい

今は、総務省に入った動機でもある「行政評価・監視」の業務(政府内にあって、施策や事業の担当府省と異なる立場から行政運営の実態を調査し、課題等を把握・分析し、改善につなげる)に従事しています。自らの仕事が世の中の役に立てるよう、行政の現場を見つめ、自問自答し、議論をしながら、行政運営の改善を一つ一つ積み重ねていきたいと思っています。



MESSAGE

学生だった私は、特定の行政分野に限定せず、各府省の幅広い政策に携わることができる行政評価という仕事に魅力を感じ、この仕事を選びました。やりがいをもって働くことに、動機は必ずしも重要ではないのかもしれませんが、みなさんも、数ある仕事の中から、魅力ある仕事に巡り会えると良いですね。総務省もその選択肢の一つになるのではないかと思います。

社会の役に立つ仕事を

現場の声から行政運営を改善

行政評価局では、政策や行政活動の実態等について、特定のテーマを選定して調査するという業務を行っており、①テーマの選定、②実地調査・分析・とりまとめ、③報告書の作成・勧告、④改善措置状況のフォローアップというのが主な流れとなります。

調査では、地方自治体や民間企業、関係団体等から現場の声を把握し、それを基に改善方策を検討します。自身の仕事がそうした現場の方々や国民の皆様の何かしらの役に立てることができ、やりがいのある業務です。

最近では、勧告後のフォローアップ対応の際に相手機関から「自分たちだけでは把握できていなかった現場の実態や推奨事例をお示しいただき、行政運営の改善につながった」との話があり、業務の意義を実感できたとともに今後のモチベーションになりました。

様々な世界に触れて成長できる

行政評価局では、調査テーマごとに全く違う行政分野を扱います。担当する調査が変わる度に一から勉強するのは大変な点ではありますが、業務を通じて様々な世界に触れることは自身にとっても大きな刺激になります。

これまでの業務では、国立公園に関する調査で山小屋に泊まりながら登山道の実地調査を行ったのが思い出に残っています。また、森林行政に関する情報収集では森林組合等から山林管理の苦労や国への要望をお聞きし、大変勉強になるとともに、こうした声を調査に反映させていきたいと強く思いました。

様々な経験ということでは、総務省では他府省や自治体等に出向できるチャンスも多くあります。私も以前内閣府の「青年の船」などの国際交流事業を担当する部署に出向し、海外に出張したりと国際的な業務に携わることができました。

このように、総務省は様々な経験を通じて成長したいという人にとってはうってつけの環境であると思います！

PRIVATE TIME

時節柄、遠出の旅行が難しいので、週末は妻と都内近郊を観光したり、カフェ巡りをしたりしています。また、テレワーク勤務も多く、平日も余暇の時間も確保できていて、最近はジムに行って、韓国ドラマを観ながらランニングをするのにはまっています！

Q 総務省の魅力は何ですか？

A ルーティン業務だけではないことです。行政評価局で言えば、調査設計では誰にどのような観点で調査を行うか、とりまとめでは調査結果からどう勧告を導くかなど、どの段階でもすぐには正解の出ない、考える仕事が多くそこが面白いところだと思います。私は入省前、公務員の仕事は決められたことを淡々とこなすというイメージを持っていたので、いい意味で裏切られました。

Q 10年後はどんな仕事をしたいですか？

A 今はどちらかというと、自分の担当する調査項目について全力で取り組むという感じなのですが、上司の方々、調査全体の進捗管理や省内外の調整等を行いつつも、過去の調査での経験等を踏まえて部下の調査項目についても細やかに指導してくれており、私も今後は全体を俯瞰しながら業務を行えるようになりたいです。





行政評価局企画課

原 梨花

Hara Rika

平成30年 4月 総務省採用
行政評価局総務課
令和 2年 4月 行政評価局企画課評価活動支援室
令和 3年 4月 現職



統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室
就業動向指標第一係長

安武 誠

Yasutake Makoto

平成22年 4月 総務省採用
統計局統計情報システム課
最適化調整係
平成23年 4月 統計局統計情報システム課調整係
平成24年 1月 統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室企画指導第二係
平成26年 7月 統計局統計調査部経済統計課解析提供係
平成29年 4月 統計局統計調査部経済統計課解析提供係長
平成31年 4月 現職

より良い行政の実現に向けて

多様性に触れる

行政評価局は、施策や事業の担当府省とは異なる立場から、政策評価の推進、各府省の行政運営に関する調査、及び行政相談に関する業務を実施しています。

そのうち、私は現在、「政策評価に関する基本的事項」及び「各府省の行政運営に関する調査の重要事項」についての調査審議及び総務大臣への意見具申等を行うことを目的に、年に数回開催される、政策評価審議会の庶務業務などを担当しています。政策評価審議会における調査審議を目の当たりにし、様々な意見を取り入れることの重要性を改めて感じる貴重な機会に恵まれ、視野や物の見方も広がったように思います。

また、もちろん周りの方々のお力添えあってこそ、滞りなく会議を開催できるのですが、開催に向けて、会場・対応職員の確保や各種調整、Web会議の設営などの準備を行い、無事に会議が終了したときには、大きな達成感とともにやりがいを感じます。

業務を通じて成長できる職場

私は以前、各府省の行政運営に関する調査における調査計画策定支援のため、予備的調査などを行う部署に所属していました。「行政運営に関する調査」というと仰々しく聞こえますが、一言でいうと、国の仕事は国民のニーズに合っているか調査し、支障があれば改善を促す仕事です。

調査を実施するに当たっては、調査テーマについて、班体制で議論を重ねます。異動当初は先輩方との経験の差に圧倒されていた私も、徐々により良い行政の実現のため、皆で考え、改善策を模索していくところに業務の面白み、醍醐味があると実感することができました。ひとえに、頼れる上司や先輩方が、私の拙い意見を根気強く聞いてくれて、時に厳しく、時に優しく指導してくださったおかげだと思います。

霞ヶ関にいながら、日本全国の現場に寄り添った仕事ができるのは、総務省ならではの魅力の一つだと思います。興味を持たれた方、ぜひ一度総務省へ足を運んでみてください。

PRIVATE TIME

コロナ禍で、趣味だったカフェ巡りができなくなったため、自宅で少し凝った料理に挑戦しています。特に、スパイスカレーは辛さでストレスが発散できるのでオススメです。「○○スパイス」にキッチンが占拠されますが、簡単なものだと20分もかからず作れますので、ご興味ある方はぜひ挑戦してみてください。



継続する力ー過去に学ぶ今の姿ー

今の日本の雇用状況

新型コロナウイルス感染症が日本の雇用にどのような影響を及ぼしたのかご存じでしょうか。総務省では、日本の雇用状況を明らかにするために「労働力調査」を毎月実施し、私はこの労働力調査の公表業務に携わっております。

労働力調査では「完全失業率」などニュースで馴染みのある数値を扱っております。公表日には、記者の方々などから問い合わせがあり、すぐにwebニュースなどで掲載されます。

ここで印象に残っている問い合わせの回答を紹介したいと思います。「2020年4月の結果から、休業者数は597万人と1年前に比べ420万人増加しました。これは、比較可能な1967年12月以降で過去最多、増加幅も過去最大となります。」この内容は、新型コロナウイルス感染症による雇用への影響が、数値として現れた結果の1つだと考えております。日本の雇用状況を正確に伝えることが、今の私の仕事です。

未来へのメッセージ

2020年4月に緊急事態宣言が発令されました。普段、政治や社会状況について情報収集の割合が低い方もこの変化を知ろうとされたのではないのでしょうか。

労働力調査の結果にも様々な変化がございました。この変化は最終的に、今後の日本の筋道を定めるための重要な根拠になります。担当者全員で、社会背景を考慮しながら関連する統計データを分析し、情報を発信していきます。

統計は、施策を行う部署と比較すると緑の下の力持ちのような役割を担います。その中で、最初に数値という客観的情報を多角的に知れることは魅力です。20年後、30年後、その先も今の数値が比較対象になる時期がやってくる可能性は大いにあります。継続的に統計を作成していくことは未来の方々へのメッセージになると思うとやりがいに感じます。統計の業務に興味をもたれた方、是非、総務省をのぞいてみてください！

PRIVATE TIME

まだ幼い娘と公園によく行きます。一緒にブランコに乗ったり、砂場で山を作ったり、シャボン玉も一緒に眺めたりします。子育ては大変なことも多いですが、特別な時間を過ごしています。

